

週刊*五

今年度も残すところ一か月と少し。新聞研究「記者読本」も入荷を待つばかりとなった▼

記者読本と合わせてネット連載の「もの書きを

目指す人びとへ」(http:

//www.econfn.co

m)も薦めたい。筆者は

朝日OBの岩垂弘氏。一

九五八年盛岡支局からス

タートした記者生活をた

どる。成功談や内情暴露

に傾きがちな自伝にあっ

て、失敗談や得た教訓、不

本意だったこと、組織が

持つ理不尽さも淡々と語

る▼かつ自分自身をも、

その時代を生きた一人と

して客観的に見つめる。

時代史としての価値も十

分で、時を忘れてページ

をめくった。取材メモ、ネ

ガはすべて保存してある

とのことだが、事実確認

だけでもかなりのエネルギー

ギーがいる作業だ▼岩垂

さんは社会部畑を歩き編

集委員などを経て九五年

退社、現在は平和・協同

ジャーナリスト基金の代

表運営委員。書き始めた

のは三年前、第一部「心構

え、あるいは心得」、第二

部「社会部記者の現場か

ら」に続き、第三部「編集

委員として」の舞台は七

〇年代後半に差し掛かっ

た。途中には若き日の岩

手日報・村田源一朗会長

らも登場する▼「時代が

近づいてきて、取り上げ

づらいことも多くなって

きたが、最後まで書き上

げたい」と岩垂さん。読ん

でいて「まずは現場へ」の言葉は、決して色あせないことがよく分かる。